「令和５年度　全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立　浩養小学校】

令和５年４月１８日（火）に、小学校第６学年全児童、中学校第３学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の小学校の結果についてお知らせします。

１　児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

（１）①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

＊調査問題は「国立教育政策研究所」のＨＰで閲覧できます。

http://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm

２　本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

（１）教科の正答率について　（※ 全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）との比較）

国　語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	B
算　数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

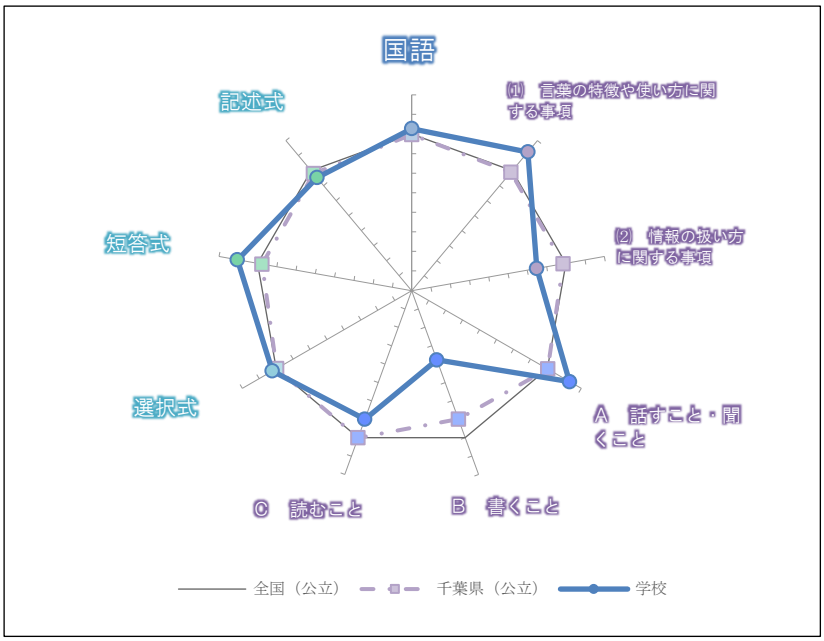
Ａ：＋５.０％より上回っている場合「良好」

Ｂ：＋５.０％～－５.０の場合「ほぼ同じ」

Ｃ：－５.０％より下回っている場合「要改善」

（２）教科ごとの分析

国　語



【特徴と現状】

○国語科の正答率は，全国・県平均共に上回っており，全国よりも約２％高いです。令和３年度の結果が全国平均よりも下回っていましたが，令和４年度と令和５年度は正答率が高くなりました。

○「（１）言葉の特徴や使い方に関する事項」と「A 話すこと・聞くこと」の正答率が高くなりました。「A 話すこと・聞くこと」に関しては，令和４年度は全国と比べて正答率が約９％も低かったが，令和５年度は約１０％も高いです。

○漢字を文の中で正しく使うことができ，日常よく使われる敬語を理解していました。

○問題形式では，令和４年度と同様に記述形式の正答率が下回りました。全国と比べて正答率が約２％下回っています。しかし，選択式と短答式は平均を上回っています。

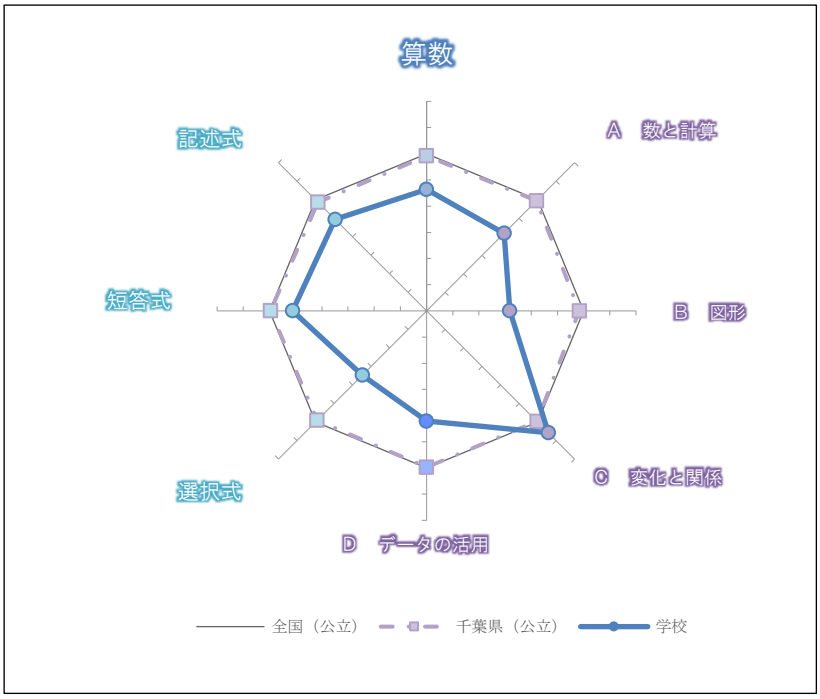
【改善方策等】

○今年度の正答率が昨年度より伸びています。昨年度の改善方策である「国語科の授業においてもタブレットを活用する」，「読み聞かせを積極的に取り組む」「朝の会などで，テーマを明確にしたスピーチを取り入れる」「朝の帯時間で音読や視写を繰り返し行い，基礎学力の向上を図る」こと等は効果があったと考えられる為，継続していきます。

○自学や日記など，書く学習を家庭学習でも取り組み，書くことに慣れ親しませていきます。

○読書に親しみ，読解力が伸びて書く力につながっていくように，学校図書館司書と図書担当が連携し，図書室の環境整備や読書を楽しめるような企画等を行っていきます。

算　数



【特徴と現状】

○算数科全体の正答率は，全国・県平均共に下回り，全国よりも約９％低いです。

○「C 変化と関係」は，全国より正答率が約４％高い。令和４年度も正答率が高く，本校が得意とする領域と考えられます。

○特に，「B 図形」に関しては，全国の正答率も約４８％と一番低いが，その全国の正答率と比べても約１４％正答率が低いです。

○「データの活用」は，全国と比べて正答率が１２％低いです。

○問題形式では，どれも全国の平均を下回っているが，特に，選択式が全国よりも正答率が１５％低いです。

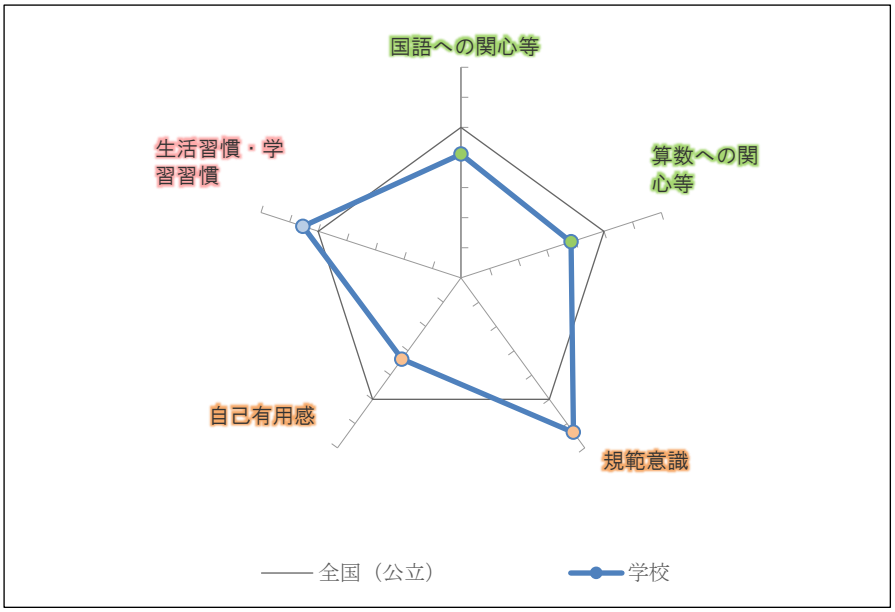
【改善方策等】

○朝の学習を活用し，計算（１００マス計算や計算の学び直し等）などの基礎学力の向上を図っていきます。

○「B 図形」に関しては，図形を構成する要素などに着目して，図形の性質や計量について考察することに課題があります。問題を解決する際に，必要な情報を主体的に見い出したり，適当な数値を当てはめたりして考える必要があります。そのためには，図形の構成の仕方を基に，図形の意味や性質について考えることができるように指導方法に関する研修を行い，授業改善に取り組んでいきます。

○データの活用は，令和４年度と同様に，目的に応じて表やグラフを読み取ったりデータの特徴を捉えて活用したりするような学習の場を設定していきます。また，算数新聞や社会などの他教科でもデータの取り扱いや解釈について適宜指導することで，特徴を捉えられるように引き続き指導していきます。

（３）児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

○規範意識と生活習慣・学習習慣が上回っています。令和４年度において，唯一低かった規範意識が伸びています。道徳の授業が充実し，考えを深めたり学級での話し合いが十分にできたりしていることが要因と考えられます。

○国語科は，大切だと感じ内容も理解できていますが，役に立つと感じることができていません。新聞や読書への関心が低いです。

○算数科は，授業の内容は理解していますが，学力に結びついていません。

○学校は楽しく，友達関係にも満足しています。しかし，自己有用感は低いです。

３　まとめ

○学校においては，全国学力・学習調査の結果から現状を把握し，対策を職員間で共有していきます。課題から考えられる改善方策に取り組むことで，児童の課題の克服を図っていきます。

○学力向上に向けて，朝の学習の時間を活用して１００マス計算や四則計算，視写や暗唱等を全校で継続的に取り組み，基礎学力の向上を図っていきます。

○継続した学びができるように，「思考し表現する力」を高める実践プログラム（千葉県で授業改善の推進を図るために考えられた授業のプログラム）の研修を行います。そのプログラムに基づいた授業の展開，ノートの取り方，授業規律などの充実を図り，学校として統一して授業改善に取り組んでいきます。

○ICT 支援員と連携し，児童がタブレットにより親しみ文房具のように使いこなせるように努めていきます。

○学校司書と連携し，今後も読書活動の推進に努めます。今年度より，全学年で読み聞かせを行っていますが，年間を通して継続していきます。

○行事や放課後子ども教室，きょうざん塾など，保護者や地域団体等による御支援・御協力を引き続きお願いします。

○携帯やタブレットなどの使用方法や時間など，御家庭でのルール作りに御協力をお願いします。